



令和7年度

内谷中学校学習案内 ～シラバス（第1学年）～



さいたま市立内谷中学校

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1

TEL 048-861-7571 FAX 048-836-1586

<http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

この「学習案内（シラバス）」は、生徒の皆さんが学校の授業に見通しをもち、主体的・計画的に学習に取り組んでもらうことを目的として作成してあります。各教科のねらい、学習内容と授業の進め方、学習上の留意点、評価の観点と方法などが示されています。また、それぞれの単元や教材で身につけてほしい力を「到達目標」という形で示しています。

また、今年度はカリキュラムマネジメントの視点から、各教科の関連を意識した授業を行っていきます。

いつも身近なところにおいて読み返し、学習の指針として活用してください。

目次

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術・家庭

グローバル・スタディ

特別の教科 道徳

特別活動

総合的な学習の時間

国語科の目標	評価の観点等
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目的とする。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができているかどうか等を評価します。 ★定期テスト、ノートやプリント等の記述内容、発表内容等をもとに評価します。 ②思考・判断・表現 ○筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができているか等を評価します。 ★定期テスト、感想や作文、ノートやプリント等の記述内容、話し合い活動や、それらの活動に基づいた発表等をもとに評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度等を評価します。 ★ノートやプリント等における記述内容、授業中の発言や参加状況、振り返りカード、教員による行動観察等をもとに評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
国語科の授業では、日常的な語彙の習得から、日本語を用いた思考力や表現力を養います。 目標にある「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることを指します。そのような目標に向かって、優れた言語感覚をもった生徒を育成します。 授業は、1・2年生は週4時間、3年生は週3時間で実施します。 日々の授業の中では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について学習します。 また、ICTを活用することで、個々の意見や考えをクラス全体で可視化、共有し、一人ひとりの考えをさらに深めていけるようにします。	

〔知識及び技能〕日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることが出来るようになる。

〔思考力、判断力、表現力等〕順序立てて考える力を養い、日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕言葉が持つよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	詩 ふしぎ □詩の情景や人物の心情を考え、読み取ったことを踏まえて朗読する。 □詩に関連した身の周りの出来事を挙げたり、詩に表現された考え方について話し合ったりする。 随筆 聞くということ □文章を読んで、これからの中学校生活で伝えたいこと、聞きたいことをまとめ、共有、交流する。 小説 桜蝶 □文学作品の構成について理解し、『桜蝶』AとBを読み、構成や展開、描写の仕方にどのような違いがあるかを考える。 説明 自分の脳を知っていますか □全文を通読し、クッキーを使った二つの実験の説明によって、筆者が伝えようとする内容を捉える。 □箇条書きにしたものをグループで読み合い、本文の段落構成や内容と比べる。 物語 ベンチ □本や文章などからの必要な情報の集め方について知る。 文法 言葉の単位 □文章・段落・文・文節・単語という言葉の単位について理解する。 説明 森には魔法使いがいる □必要な情報に着目して、調べたり考えたりしながら読む。 □筆者の考えや述べ方を踏まえ、根拠を明確にしながら自分の表現で筆者の考えをまとめる。 表現 お気に入りの一品を紹介する □伝えたいことを明確にし、紹介文を作成する。それをもとに発表する。
2 学 期	古文 物語の始まりー竹取物語ー □古典の仮名遣いに注意して音読し、物語の内容を捉える。 □「竹取物語」について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを理解する。 古文 故事成語ー中国の名言ー □いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する。 □漢文訓読のきまりを理解したり、音読したりして、文章の響きを味わう。 物語 蜘蛛の糸 □わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。 詩 河童と蛙 □場面と描写を結びつけて読む。 物語 オツベルと象 □語句の意味や擬声語・擬態語に注意し、その工夫や効果を理解する。 □作品の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。 説明 子どもの権利 □専門的な事柄などを表す語句の意味をおさえ、文章内容を捉える。 □論理の構成や展開に着目して、筆者の主張を読む。 □自分の経験と関連づけて読み、自分の考えをまとめる。 文法 文の成分 □主語・述語・修飾語など、文の成分の役割について理解する。

3 学 期	説明 言葉がつなぐ世界遺産 □事実と意見の関係、文章の構成や展開に注意して読み、筆者の考えを捉える。 □筆者の考えについて、自分の考えをまとめ、理解を確かにする。 物語 少年の日の思い出 □場面の展開や登場人物の心情の変化を、描写に基づきながら捉える。 □語り手に着目して作品を読み、意見を交流するなどして、自分の考えを確かなものにする。 文法 単語のいろいろ □自立語と付属語、活用の有無などの、分類の基準について理解する。
-------------	--

社会科の目標
◎広い視野に立って、社会（世の中）に対する関心を高める。 ◎資料を分析・活用して、多面的・多角的に考察し、表現できる力をつける。 ◎国土と歴史に対する理解を深める。 ◎グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国・社会を形成する一員として必要な、公民としての基礎を育成する。
学習の特色
◎身につけた基礎知識を活用し、思考力・判断力・表現力を高めていく教科です。単に覚えるだけではなく、一つの事柄を様々な視点から考えることで、より理解を深める。 ◎世界の動向や地域社会の課題など、社会に課題意識を持ち、解決していくためのスキルを習得する。 ◎授業では、基礎知識を理解するとともに、教科書を中心とした資料を活用し、資料に基づいて考察するなどの学習を進める。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの主張にも耳を傾けつつ、自分の考えを修正したり補強したりする。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりする場として、授業内で自分の考えを、ICTを用いて発表する機会を設ける。 ◎自主学習課題を工夫して進めることで、主体的に、知識だけでなく思考・判断・表現力も伸ばす。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会的事象に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付けるようとしている。 ★ テスト（定期テストなど） ★ パフォーマンス課題 （レポートや ICT を用いたプレゼンテーションなど） ②思考・判断・表現 ○社会的事象の意味や意義を、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力や、その思考・判断の内容を説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★パフォーマンス課題 （ICTを用いたプレゼンテーション・レポートなど） ③主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★パフォーマンス課題 （プレゼンテーション・レポートなど） 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 社会科 第1学年の目標	
社会科好きの生徒を育てる授業の実践	
学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	＜地理的分野＞ 第1編 世界と日本の姿 第1章 世界の姿 ・小学校で学んだことを生かしながら世界の大まかな地域構成について学習する。 ・緯度と経度、大陸と海洋の分布などを基に、世界の地域構成を大観し、理解する。 ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 第2章 日本の姿 ・日本の位置や領域など、日本の大まかな地域構成について学習する。 ・日本の国土の位置、領域の特色などを基に、日本の地域構成を大観し、理解する。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境 ・世界の人々の暮らしが環境や社会的条件によって変化することについて学習する。 ・人々の生活は自然及び社会的条件から影響を受けることや、世界の人々の生活が多様であること、世界の主な宗教の分布について理解する。 ・世界の人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が行われる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ＜歴史的分野＞ 第1章 歴史へのとびら ・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的なことについて学習する。 ・資料から歴史に関する情報を読み取り、年代の表し方や時代区分を理解する。 ・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、時代区分とのかかわりなどについて考察し、表現する。
2 学 期	＜歴史的分野＞ 第2章 古代までの日本 ・世界の古代文明や宗教のおこりから平安時代の国風文化までを学習する。 ・世界の古代文明や宗教、日本列島における農耕の広まりと生活の変化、律令国家の確立に至るまでの過程や変化、仏教の伝来と国風化が進んだことについて理解する。 ・東アジアとの交流と政治と文化の変化などに着目して古代までの日本を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ＜地理的分野＞ 第2章 世界の諸地域 ・世界を各州に分け、その人々の生活を基に各州の地域的特色について学習する。 ・その地域的特色の影響で課題の現れ方が異なることや各州の地域的特色を理解する。 ・各州においてみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
3 学 期	第2章 世界の諸地域 続き ＜歴史的分野＞ 第3章 中世の日本 ・武士の登場から室町文化まで学習する。 ・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まり、鎌倉幕府や室町幕府が成立したこと、東アジア世界と密接な関わりが見られたことを理解する。 ・武家政治の展開や東アジアの動きなど、中世の時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

令和7年度 内谷中学校 数学科 シラバス

数学科の目標 ・数学を学ぶことで、問題解決の喜びを感じ、人生をより豊かにする。このため、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識を高められる生徒の育成をする。 ・社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められる能力を育成する。	評価の観点等 評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色 数学科の授業では、定義をもとに、用語や知識の習得と、基本的計算の反復練習、根拠をもとにした説明能力をバランスよく身に付けていく。加えて、3年間を通して、美しく簡潔な解答を作成できる能力を育成する。 1, 3年生は週4時間, 2年生は週3時間, 授業を行う。授業内では教科書やワークシートを活用し, 前時の授業からのつながりを大切にしながら系統的に進めていく。また, ICT の活用により, 関数のグラフや図形等の知識の上にあるイメージをより鮮明にし, 理解につながる授業の工夫も取り入れる。 さらに, 数学科では, STEAMS 教育の中心として, 「言語としての数学」を重視し, 他教科との連携を図り, 自らが考え, 問題を解決する能力を育成する。	①知識・技能 ○各教科で身につけるべきとされる知識やスキルについて, 十分に習得しているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の出題 等。 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って解決の糸口を見つけ, 自らの思いを表現できているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の論理的な記述 等。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○生徒本人がいかに学習を調整して, 知識を習得するために試行錯誤しているかを評価する。 ★定期テスト, 授業中のグループ活動や発表・課題レポート 等。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 数学科 第1学年の目標

「なぜだろう？」を意識した授業の展開

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	1章 正の数・負の数 ・正の数と負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ・正の数と負の数について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・正の数と負の数を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。 2章 文字の式 ・文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。
2 学 期	3章 方程式 ・一元一次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ・一元一次方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・一元一次方程式を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。 4章 変化と対応 ・比例、反比例の必要性和意味を考えようとしている。 ・比例、反比例について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・比例、反比例を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。 5章 平面図形 ・平面図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。
3 学 期	6章 空間図形 ・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。 ・空間図形について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・空間図形の性質や関係を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。 7章 データの活用 1節については、 ・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を考えようとしている。 ・データの分布について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。 2節については、 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしている。

理科の目標
身のまわりにある自然や物質、あるいは身の回りで起こっている現象について、調べ方を考え、予想をし、観察や実験を行って得られた結果を解析して規則性を把握する教科である。そのために、自然や事物現象に対する知識を習得するとともに、その観察や実験で得られた結果を考察し表現する能力、自然や事物現象にいかに関心を持ち、生活の中に活用できるかを考えられる能力を育成する。
学習の特色
理科という教科は、観察・実験があるため、5教科の中でもとりわけ実技系教科に近い性質があり、テストの点数だけでなく、観察・実験の評価も合わせて成績の判断とします。そのため、テストの点数が高いからといって、観察・実験をないがしろにしていると成績が上がりにくく、逆にレポートが素晴らしいと評価が上がることもあります。 各学年で「生命」に関する単元、「地球」に関する単元、「物質」に関する単元、「エネルギー」に関する単元があり、この単元なら得意、という内容が見つかることも少なくありません。また理科は他教科の内容を幅広く扱うことも多く、特に数学、社会、技術・家庭科、保健体育、美術など、様々な教科のエッセンスを取り扱う事も多い教科です。理科を学習することで、他教科の内容も深く理解することができることが多いのも特徴と言えます。 最後に理科は「疑問」から成立した教科です。常に「疑問」を持って、自分なりに考え、観察・実験を通して結果をまとめ、発表できるような能力の育成を目指しています。

評価の観点等

評価の観点

- ①知識・技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

①知識・技能

○身のまわりの自然や物質、現象などについて知識を習得し、それを利用する事ができるとともに、観察・実験を適切に行い、結果をまとめることができる。

★主にテスト・観察・実験レポート

②思考・判断・表現

○身のまわりの自然や物質、現象などがどのような仕組みでそうになっているかを予想し、観察・実験で得た結果をもとに規則性を見つけて、表現することができる。

★主にテスト、観察・実験レポート

③主体的に学習に取り組む態度

○身のまわりの自然や物質、現象などについて、積極的に取り組む姿勢を持つとともに、習得した学習内容を自ら活用できるようにすることができる。

★主に授業ノート、ワーク、テスト、授業の様子等

評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 さいたま市立内谷中学校 理科 シラバス

学年・教科		第1学年 「理科」	
教科目標		自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。	
指導計画		学習内容	学習のねらい
	1 学期	いろいろな生物と共通点 ○植物の特徴と分類 ○動物の特徴と分類	○野外観察から、校舎周辺には様々な生物が生活していることを見出す。 ○植物や水中の生物の観察をし、スケッチの仕方を身につける。 ○観察記録から、植物が体のつくりの特徴から分類できることを見出す。 ○植物には種子をつくるものとつくらないものがあることを理解する。 ○動物の種類やその生活についての認識を深める。 ※ルーペ、顕微鏡の操作方法、プレパラートの作り方を身につける。
	2 学期	身のまわりの物質 ○いろいろな物質とその性質 ○いろいろな気体とその性質 ○水溶液の性質 ○物質のすがたとその変化	○物質には密度や電気の通りやすさ、加熱したときの変化など固有の性質があることを発見する。 ○状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを発見する。 ○気体の発生や収集方法を習得し、気体の種類による特性を見出す。 ○水溶液では溶質が均一に分散していることを知る。 ※カスパーナー、各種実験器具の使用方法、指示薬の使い方を身につける。
	3 学期	光・音・力による現象 ○光による現象 ○音による現象 ○力による現象	○身近な事物・現象についての観察・実験を通して、光や音の規則性、力の性質について知る。 ○実験を通して、光の反射の法則や凸レンズの働きを発見する。 ○音は空気中を波のように伝わり、音の大小高低により振幅と振動数が変わることを発見する。 ○力の三要素を知り、物体に力が働くとその物体が変形したり、動き始めたり、運動の様子が変わることを発見する。
評価方法	3 学期	活きている地球 ○身近な大地 ○ゆれる大地 ○火をふく大地 ○語る大地	○大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象と大地の変化との関係について知る。 ○火山や火山噴出物、火成岩の特徴とマグマの性質との関連に気づく。 ○地震の大きさや伝わり方の規則性、地震の原因や地震による土地の変化の様子を理解する。 ○地層のでき方、重なり方の規則性を発見する。
		学期評価 ＊学習活動への取り組み、提出物の提出率・内容、定期試験、パフォーマンステスト、小テストなどで評価します。 ＊定期試験については、観点に分けて作成します。〔知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度〕	
学習方法		○教室での授業、及び理科室などでの実験、観察。（校舎外なども含む） ○映像やインターネットなどを利用した視聴覚的学習。（ICTの活用）	
その他		○実験室確保のため、教科書の順番を入れ替えて実施する場合があります。 ○観察・実験の際、安全に授業を進めるため、安全メガネを着用します。（今年度購入します） ※着用できない場合は、観察・実験が行えないこともあります。 ○理科資料集（理科便覧）は、3年間使用するので、大切に扱ってください。 ○配布されたプリント類は必ずファイルに閉じて、しっかり保存しておきましょう。	

音楽科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指しています。
学習の特色
音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を通して、日常のさまざまなことを、音楽と結びつけて考える力を身に付けること、また、その力をもって生涯を通して音楽を好きになっていくことが目標です。 音楽は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間あります。1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。 2学期には、合唱祭という大きな行事があります。限られた練習時間で歌えるようになるには、個々の努力やクラス全員の団結力が必要です。ぜひ混声合唱で歌い合わせるハーモニーの美しさを味わってほしいと思います。 昨年度に引き続き、全学年でリコーダーの授業の実施、1年生でアルトリコーダーの購入を検討しています。ICTを用いた作曲活動にも取り組む予定です。 また、管弦楽教室（第2学年）、合唱祭（全学年）、小中合同音楽会（第3学年の1学級）等、学校外のホールにて、音楽に関する行事があります。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能が身についているかを評価します。 ★定期テスト、実技テスト、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ②思考・判断・表現 ○音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるかを評価します。 ★ワークシートの記述（鑑賞）、定期テスト（リスニング問題）、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培われているかを評価します。 ★ワークシート（自己評価カード）等提出物の記述、授業中の取り組みや発言、テストのへの取り組みを総合して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 音楽科 第1学年の目標

【知識及び技能】曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていこう態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	□「Joy To The World」(内谷中発声練習)、校歌「白いノート」 ○音楽への関心を高め、意欲的に歌うことができる。 □指揮をしてみよう ○楽曲にふさわしい指揮を工夫することができる。 □春(「四季」より) ○楽器の響きや強弱による曲想の変化を感じ取って鑑賞することができる。 ○作曲家や背景、楽曲の音楽形式や諸要素を知り多面的に観賞することができる ○楽曲の構成を理解し味わって鑑賞することができる □「夏の思い出」 歌詞の内容や曲の山などを理解し、表現を工夫することができる。 □学級ごとの選択曲(合唱祭に向けて) ○混声合唱の響きを感じながら、表情豊かに合唱することができる。 ○多様な歌唱表現を知り曲にふさわしい声で歌うことができる
2 学 期	□学級ごとの選択曲(合唱祭に向けて) ○混声合唱の響きを感じながら、表情豊かに合唱することができる。 ○多様な歌唱表現を知り曲にふさわしい声で歌うことができる □「赤とんぼ」 ○歌詞の内容を理解し、情景を想像して表現を工夫することができる。 ○美しい発音で表情豊かに歌うことができる。 □「魔王」 ○歌詞の内容を理解し、情景を想像して表現を工夫することができる。 ○詩の内容と音楽との関わりを理解して鑑賞することができる。 □アルトリコーダーに親しもう ○アルトリコーダーの奏法や運指といった基礎的な知識・技能を身に付けることができる。 ○楽器の音色など音楽の特徴を感じながら演奏することができる。
3 学 期	□日本とアジアの声によるさまざまな表現 ○我が国やアジア地域の諸民族の様々な声で表現する音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解して鑑賞することができる。 ○生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞することができる。 □箏曲「六段の調」・箏演奏 ○箏などの和楽器に興味を持って取り組むことができる。 ○日本音楽の独特な雰囲気や特徴を感じ取ることができる。 □リコーダー・箏等によるアンサンブル ○楽器の音色などの特徴を活かしたアンサンブルを創作することができる。 ○リズムを正確に表現することができる。 ○基礎的なリズムを理解し表現することができる。

※時間割の関係で、クラスによってテストまでの時間数が異なります。

期末テストの試験内容や実技テストの評価については全クラス共通のものとなりますのでご承知おきください。

美術科の目標	評価の観点等
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てていくことを目標としています。 ○造形的な視点を生かし、表現方法を工夫して、造形的に表すこと。 ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、発想や構想を練ること、また美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること。 ○創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○発想や構想したことなどを基に、創意工夫したり、見通しをもちながら表したりすること、用具を正しく用いているか、形や色彩などの性質や効果などを理解しているかなどを評価します。 ★ワークシート、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ②思考・判断・表現 ○感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をしてくと共に、美術作品や美術の働きや美術文化に関する鑑賞を通して評価します。 ★ワークシート（アイデアスケッチや鑑賞）、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識・技能や思考・判断・表現の能力を身につけるために、どのように努力を重ね、主体的かつ意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ★ワークシート（特に振り返りカード）、授業での取り組みの様子や、発言、作品での取り組みの工夫、などを総合的に評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
美術の授業では、「感じ取ったことや考えたことなど」や「目的や機能などを考えたこと」から発想や構想し、立体や平面の作品に表していく表現の活動や、美術や美術文化について、見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して、作品をつくりあげる喜びや、心豊かな生活を創造していこうとする気持ちを育みます。 美術は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間しかありません。1時間の授業を大切に制作に取り組みましょう。また、「こんなところにも美術が使われている」「これを美術に生かしたら楽しそうだな」など、日ごろから皆さんの身の回りのものを美術的な視点で見ていくと美術の力につなぐことができます。 美術は自分なりの正解を創りだしていく授業です。ぜひ、自信をもって作品をつくりあげてください。	

令和7年度 美術科 第1学年の目標	
(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。	
学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	オリエンテーション ・美術との出会い ようこそ美術の学びへ ・これからの一年間の学習内容に取り組む意欲を高めている。 文字が生み出すイメージ（レタリング） ・レタリングの基本的技能を身につけている。 ・自分の名前や好きなことなどから主題を生み出し、形や色彩との調和を考え、構想を練ることができる。 ・友だちの作品のよさや美しさに気づくことができる。 印象に残る文字のデザイン ・その文字に関連する意味やモチーフから主題を生み出し、形や色彩との調和を考え、構想を練ることができる。 ・身近なものや風景の形や色彩を観察し、その美しさから主題を生み出している。 ・彩色の用具の生かし方を身につけ、工夫して表している。 ・友だちの作品のよさや美しさに気づくことができる。 なぜか気になる情景 ・身近なものや風景の形や色彩、明暗や質感を観察し、その美しさから主題を生み出している。 ・彩色の用具の生かし方を身につけ、工夫して表している。 ・友だちの作品のよさや美しさに気づくことができる。
2 学 期	そのものらしさを形にして ・作品の制作過程を記録として残し、制作に活用することができる（ICTの活用） ・作品作りに意欲的に取り組むことができる。 ・題材からイメージし、具体的な発想をデザインすることができる。 ・粘土を使い着彩し、作品を期限内に完成させることができる。 ・友だちの作品の表現の良さを見つけることができる。 印象派の画家 クロード・モネの鑑賞 ・クロード・モネの作品を通して、色彩の効果や感情などについて理解する。
3 学 期	広がる模様の世界 ・自然物のよさや美しさなどの造形的な特徴をもとに、表現の構想を練ることができる。 ・材料の特徴を生かして、制作の順序を考えながら見通しを持った制作ができる。 形や色で伝えるシンボルマーク ・具体物や文字などの形や色彩などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることができる。 ・伝えたい内容と伝わりやすさの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。

保健体育科の目標	評価の観点等
保健体育を学ぶことで、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。・各種の運動の特性に応じた技能・健康・安全について理解し、基本的技能を身につける。・自他の課題を発見し、解決に向けて思考判断し、他者に伝える力を養う。・生涯にわたって運動に親しみ、健康保持・体力の向上を目指し明るく豊かな生活を営む態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	
保健体育科の授業では、教科の目標をもとに、知識を習得し、それぞれの運動の特性に応じた行い方や運動をすることの意義や効果などについて科学的に理解できるようにします。基本的技能を身につけることで、生涯にわたって運動に親しむ資質をばぐくめるようにします。また、3年間を通して体力の向上を目指し、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指していきます。 1・2・3年生ともに週3時間、授業を行います。授業内では毎時間の目標をたて、教科書や学習カードを活用し、どうしたら上達したり、身につけたりすることができるのかを考えながら進めていきます。また、ICTを活用し、知識を深めるとともに、動画撮影等を行うことで、動きのイメージをより鮮明にし、分析したり、他者に伝えたりすることができるようにします。 1学期には体育祭を開催します。全学年が、学習の成果の発表の場として表現をしたり、競技力向上を目指したりします。活動を通して、集団としてのまとまりや他を認める心を育てていきます。	①知識・技能 ○運動の意味や成り立ちを知り、実際に行うことができるか評価する。また、保健課題について理解を深められているか評価する。 ★テスト (定期テストや実技テスト等) ★授業内の取り組み ★学習カード ②思考・判断・表現 ○自分の課題を見つけ、適した練習を選択し、課題を解決するために必要な力を身に付けたり、表現したりすることができるか評価する。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★学習カード ★授業内の取組 ③主体的に学習に取り組む態度 ○健康や安全に留意し、一人一人の違いを認めながら、仲間と協力して積極的に学習に取り組んでいるか評価する。 ★授業中の取り組み方 ★学習カード 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 保健体育科 第1学年の目標

運動の基礎・基本を学び、進んで取り組もう。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	○体育に関する知識 ・運動やスポーツの学び方や運動の効果を理解している。 ○体づくり運動 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解している。 ○陸上競技Ⅰ（短距離走・リレー） ・技術の名称や行い方などを理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができる。 ○器械運動（マット運動） ・器械運動の特性や成り立ち等を理解し、自己の能力に適した技がよりよくできる。 ○水泳 ・記録の向上や競争の楽しさを知り、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付けることができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防） ・健康の成り立ち・疾病の要因を知り、健康の保持増進について考えることができる。
2 学 期	○球技Ⅰ（ソフトボール・バレーボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○陸上競技Ⅱ（長距離走） ・自己にあったペースを見つけ、タイムを短縮したり競争したりできる。 ○球技Ⅱ（ハンドボール・バスケットボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○ダンス（現代的なリズムのダンス） ・リズムに乗って全身で踊ることや、イメージを捉えて表現することができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防・心身の機能の発達と心の健康） ・健康の成り立ち・疾病の要因を知り、健康の保持増進について考えることができる。 ・自身の体の機能や発育・発達について知り、心の健康を保つ方法を考えることができる。
3 学 期	○武道（柔道・剣道） ・基本動作と基本となる技を身に付けることができる。 ○球技Ⅲ（サッカー） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ○保健（心身の機能の発達と心の健康） ・自身の体の機能や発育・発達について知り、心の健康を保つ方法を考えることができる。

令和7年度 内谷中学校

家庭科 シラバス

家庭科の目標
◎それぞれの分野について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ◎生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を養う。 ◎家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。
学習の特色
◎調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識・技能を生徒自らの生活に生かします。 ◎家庭科の学習を通じて、自分に対する理解や他者へのかかわり方を学び、自分自身の成長に繋がります。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの意見や感想に耳を傾けながら、自分自身の生活課題の改善に繋げよりよい生活について考えます。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。 ◎授業での新しい発見や気づきを大切にして、自分の生活と結びつけたり、実際に工夫したりして、主体的に学習に取り組む態度も伸ばしていきます

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
評価規準：○ 評価方法：★ ①知識・技能 ○家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 ★ テスト（定期テスト、技能テストなど） ★ レポート ②思考・判断・表現 ○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★レポート ★振り返りシート ③主体的に学習に取り組む態度 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★レポート ★振り返りシート

令和7年度 家庭科 第1学年の目標

よりよい生活のために工夫・創造できる生徒を育成する授業の実践

学期	学習の内容と授業の進め方・評価の観点と評価
1 学 期	A【自分の成長と家族】 ○今の自分とこれから ・自分の成長と、家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ○家庭のはたらきと家庭の仕事 ・家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ○様々な家族・家庭 ・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 B【目的に応じた衣服の選択】 ○衣服のはたらき ・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ○衣服の選択と着方 ・既製服を選ぶポイントがわかる。 ・和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。
2 学 期	B【日常着の手入れと保管】 ○衣服の手入れ ・衣服の正しい手入れの仕方について理解する。 B【生活を豊かにするものの製作】 ○製作の基礎・基本 ・製作における縫い方や安全な取り扱い方がわかる。 ○シューズ袋の作成 ・製作の手順を理解し、完成までの流れを理解し、製作できる。 B【住まいのはたらきとこちよさ】 ○住まいのはたらき ○住まいの空間 ・住まいの基本的な役割について理解する。 B【安全な住まいで安心な暮らし】 ○家庭内事故への備え ○災害への備え ・家族の安全を考えた住空間の整え方について理解し、工夫する。
3 学 期	C【家庭生活と消費】 ○消費生活のしくみ ○家庭生活における支出と収入 ・消費生活のしくみについて理解する。 C【購入・支払いと生活情報】 ○いろいろな購入方法 ○購入前に知っておくこと ○いろいろな支払方法 ○情報を活用した上手な購入 ・購入方法や支払方法を知り、目的にあった商品選択ができる。 C【消費者被害と消費者の自立】 ○なくならない消費者被害 ・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。

技術分野の目標
技術分野では、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術のかかわりや技術のしくみ・原理等について理解を深め、自ら進んで生活を工夫し創造する能力と生活の中から問題（課題）を発見し、解決しようとする実践的な態度を育てることをねらいにしています。
学習の特色
技術分野の学習は、知識や技術のしくみ・原理を理解するだけではなく、習得した知識や技能を日常生活で発揮できるように取り組んでいきます。 また、さまざまな生活の課題に取り組むという実践力を身につけられるようにしていきます。そのために、常に問題意識を持ちながら、自分自身の生活を見つめ直し、習得した知識や技術を生活の中で発揮できるように、「生活の中での実践」を心がけるようにしてもらいます。また、より充実した学習・生活ができるように実生活の中で習得した知識・技能を上手に使っていくことを奨励します。 なお、実習を単に「ものづくり」で終わらせることなく、ものづくりがなんの役に立つのか、なんのためにするのか、なにを解決するのか、といった視点を重視し、ものづくりを通して、社会や生活と技術のかかわりを考えてもらうことを大切にしていきます。 また、興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○各分野で身につけるべきとされている知識や技能について、十分に習得できているかを評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って自らの考えや思いを表現できているか、課題を解決できているか等を評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○授業（学習や実習）に取り組む態度、授業への参加状況・姿勢、課題等の提出状況等を評価します。 ★評価方法 ・授業の様子（姿勢・取り組み状況） ・提出物の提出状況・内容 ・作品（実習課題）、等 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 技術・家庭科 技術分野 第1学年の目標

技術の見方・考え方を学び、技術と社会のかかわり方を考えよう！

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	ガイダンス「技術について考えよう！」 ・私たちの生活や社会を支える技術について、技術の見方・考え方から関心をもつことができる。 ・生活や社会を支える技術について考える。 ・技術の発展と生活・産業、環境について考える。 ・日本の伝統技術を知る。 ・技術を通して未来の社会について考える。 材料と加工の技術「身のまわりを整理できるものをつくろう！」 ・材料の種類と特徴について知る。 ・木材の性質と種類について知る。 ・材料と環境とのかかわりについて知る。 ・じょうぶな構造について考える。 ・製作に必要な図をかくことができる。 (等角図、第三角法等)。
2 学 期	・製作に必要な図をかくことができる。 (等角図、第三角法等)。 ・製図記号を理解できる。 ・図面を読むことができる。 ・製作に必要なけがきをすることができる。 ・けがきにそって切断を行う。 ・切削を行う。 ・下穴あけを行う。 ・くぎ接合を行う。 ・組立の検査と修正を行う。 ・表面と角の仕上げを行う。 ・ワックスがけを行う。 ・完成した実習課題の評価を行う。
3 学 期	・製作に必要な図をかくことができる。 (等角図、第三角法等)。 ・製図記号を理解できる。 ・図面を読むことができる。 ・製作に必要なけがきをすることができる。 ・けがきにそって切断を行う。 ・切削を行う。 ・下穴あけを行う。 ・くぎ接合を行う。 ・組立の検査と修正を行う。 ・表面と角の仕上げを行う。 ・ワックスがけを行う。 ・完成した実習課題の評価を行う。

令和7年度 内谷中学校 グローバル・スタディ科 シラバス

グローバル・スタディ科の目標	評価の観点等
将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる生徒を育成します。 ・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指します。 ・日本やさいたま市の伝統・文化に誇りをもち、将来にわたり、社会に貢献する生徒の育成を目指します。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○外国語の知識(単語や文法など)を理解しているかを評価するとともに、外国語の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章表現活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ②思考・判断・表現 ○知識及び技能を活用して、コミュニケーションや発表活動を行うのに必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章やレポート等の作成や発表、グループでの話し合い活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自分がさらに向上していこうとする意志的な側面を評価します。 ★ノートやレポート等における記述、授業中の発言や参加状況、教師による行動観察等を使用して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
グローバル・スタディ科の授業では、英語の習得と、習得した初歩的な英語を用いて、「聞くこと」、「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」、「書くこと」の4技能をバランスよく身に付けていきます。 加えて、3年間を通して、コミュニケーション能力を育成します。 授業は週4時間と週5時間を交互に繰り返しながら行います。また、定期的にALTが授業に参加し、英語による言語活動を充実させます。授業は英語で行うことを基本とし、生徒の状況を見ながら進めていきます。また、ICTを活用することで、イメージで理解し、表現の幅を広げる授業の工夫も取り入れます。 *ALT・・・外国人の先生 さらに、グローバル・スタディ科では、各教科等の学習内容とも関連させながら、我が国やさいたま市の伝統や文化への理解を深め、日本人としてのアイデンティティを醸成します。 自分の将来の夢や進路とも関連付け、よりグローバルな視野を持つ生徒を育成します。	

令和7年度 グローバル・スタディ科 第1学年の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	Get Ready ☐ 友達との対話や先生へのインタビューを通して、即興でやり取りをすることができる。 ☐ アルファベットの形、つづり字、発音について理解することができる。 PROGRAM1 友達を作ろう ☐ 自分や相手のことを表現する。 ☐ 相手のことについて知りたいことを質問したり、適切に答えたりする。 PROGRAM2 1-Bの生徒たち ☐ 自分や相手がすることを表現する。 ☐ 主人公の友だちについて理解し、話す。 ☐ 相手の情報を得るための質問をしたり、適切に答えたりする。 PROGRAM3 タレントショーを開こう ☐ 「できること」「できないこと」を表現する。 ☐ タレントショーについて理解し、話す。 ☐ 誰かができること、得意なこと、特徴などを発表する。 ◆Our Project1 あなたの知らない私 ☐ 自分のことについて、マッピングを使って話す内容を広げる。 ☐ 内容を整理して、まとまりのよいスピーチをする。 ☐ 聞き手に伝わりやすい工夫をしながら、スピーチをする
2 学 期	PROGRAM4 Let's Enjoy Japanese Food.  ☐ 自分と相手以外の人や物について表現する。 ☐ 日本の文化について理解し、話す。 ☐ 日本の特徴的なものや人について意欲的に表現する。 PROGRAM5 Pajama Day ☐ 自分と相手以外の人ができることを表現する。 ☐ パジャマデーについて理解し、話す。 ☐ 自分と相手以外の人について、事実を基にまとまりのある紹介文を書く。 PROGRAM6 The Way to School ☐ 「理由」などについて表現する。 ☐ ジャクソンの通学について理解し、話す。 ☐ お気に入りの人物やものについて、質問したり、適切に答えたりする。 PROGRAM7 Research on Australia ☐ 「～がある」「～がいる」などを表現する。 ☐ オーストラリアの様子について理解し、話す。 ☐ 自分のおすすめスポットや行事について発表する。 ◆Our Project2 この人を知っていますか ☐ 紹介したい人について、マッピングを使って話す内容を広げ、整理する。 ☐ 話す順序をよく考えて、わかりやすいスピーチをする。 ☐ 聞き手のアドバイスを積極的に取り入れ、スピーチを完成させる。
3 学 期	PROGRAM8 Happy New Year! ☐ 今していることについて表現する。 ☐ 年末年始の過ごし方について理解し、話す。 ☐ 今していることについて意欲的にやりとりする。 PROGRAM9 A Trip to Finland ☐ 過去のことにについて表現する。 ☐ フィンランドの様子について理解し、話す。 ☐ 過去にしたことについて意欲的にやりとりする。 PROGRAM10 Grandma Baba's Warming Ideas! ☐ 過去の様子などについて表現する。 ☐ ばばあちゃんの物語について話す。 ☐ 自分や自分以外の人やものの過去の様子について、意欲的に表現する。 ◆Our Project3 私が選んだ1枚 ☐ 自分が選んだ絵や写真について、メモやマッピングをもとにスピーチをする。 ☐ スピーチの型を活用して、わかりやすいスピーチをする。 ☐ 聞き手のコメントや質問に積極的に対応し、やりとりを楽しむ。